2024Social Impact Day
インパクト投資に関するアンケート

インパクト志向金融宣言
2024年6月

1.調査概要

調査件名　インパクト投資に関するアンケート

調査目的　インパクト投資の前線に携わる様々な実務者の想い、疑問、悩みを共有し、コミュニティ全体の活性化に貢献する。

Social Impact Day 2024のインパクト志向金融宣言のイベント時のパネルディスカッション
「次世代が語る「インパクトファイナンス」の今後 ～ここが変だよ、インパクト投資。」で参照。

調査時期　2024年4月中旬～5月10日迄

調査対象　インパクト志向金融宣言関係者またはその知人

調査手法　Webアンケート

有効回答　30

調査実施　インパクト志向金融宣言　事務局　小笠原　由佳、融資・債券分科会　橋爪　麻紀子

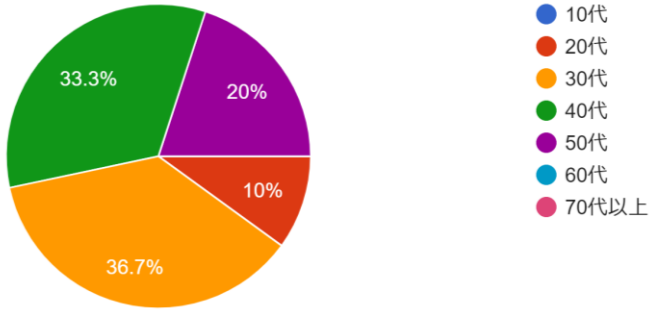
主なポイント

- ✓ 件数は多くはないものの、年代、所属、インパクト投資の経験年数などは多様な属性の回答者からの意見を得られた。属性による回答の傾向は特に見られなかった。
- ✓ **インパクトファイナンスの業務に関わる中で、「あれ？」「おかしいな」「なぜ？」と思ったこと**、の中で最も多い回答が得られたのは、【あいまいな定義・認識のギャップ】インパクト投資関連の定義や各人認識が明確ではないこと(44.8%)。
- ✓ **インパクトファイナンスが、次世代へとますます広がっていくために今一番必要なもの・こと、**についても多様な回答が得られたが、【成功事例・実績・ユースケース】の件数の積み上げに加え、インパクト創出が経済リターンにつながっていくことに対する事例が証明されることを望む声が多かった。

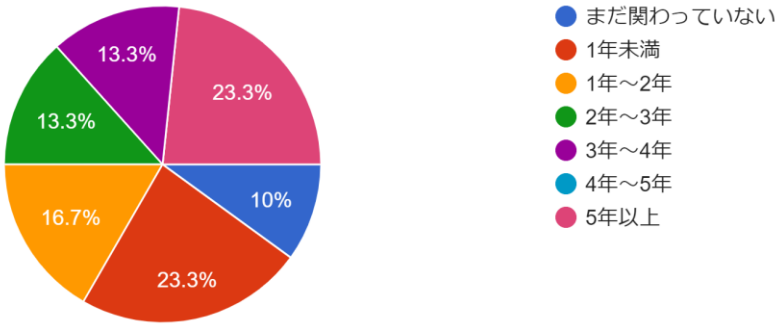
2.回答者属性

- ✓ 年代(グラフ右上):20代(10%)、30代(36.7%)、40代(33.3%)、 50代(20%)と、実務担当者が中心。
- ✓ 属性(グラフ右下):金融機関(30%)が最も多く、次いでVC/CVC(20%)、事業会社、アセットオーナー、評価機関と、多様な立場からの回答。
- ✓ 経験(グラフ左):5年以上(23.3%)1年未満(23.3%)、で最も多く、次いで1-2年、2－3年、3－4年。長くかかわっている回答者から、初学者まで幅広い回答。

【属性】あなたの年齢層を教えてください
30 件の回答



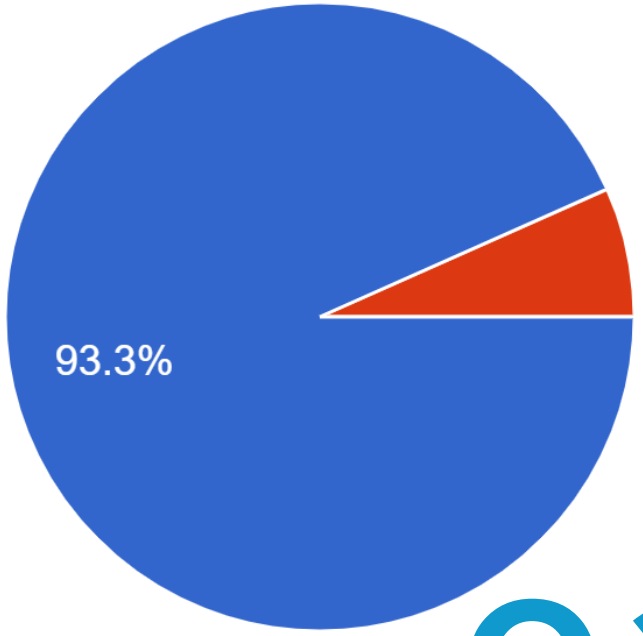
どれぐらいの期間、業務でインパクトファイナンスに関わっていますか？
30 件の回答



【属性】以下の選択肢から最もあなたの立場に近い...る場合、最も比重が重いものを一つ選択下さい)
30 件の回答

3-1. 設問内容

Q 1. インパクトファイナンスの業務に関わる中で、「あれ？」「おかしいな」「なぜ？」と思ったことがありますか。



インパクトファイナンスに関わる中で、
「あれ？」「おかしいな」「なぜ？」と思ったことがある

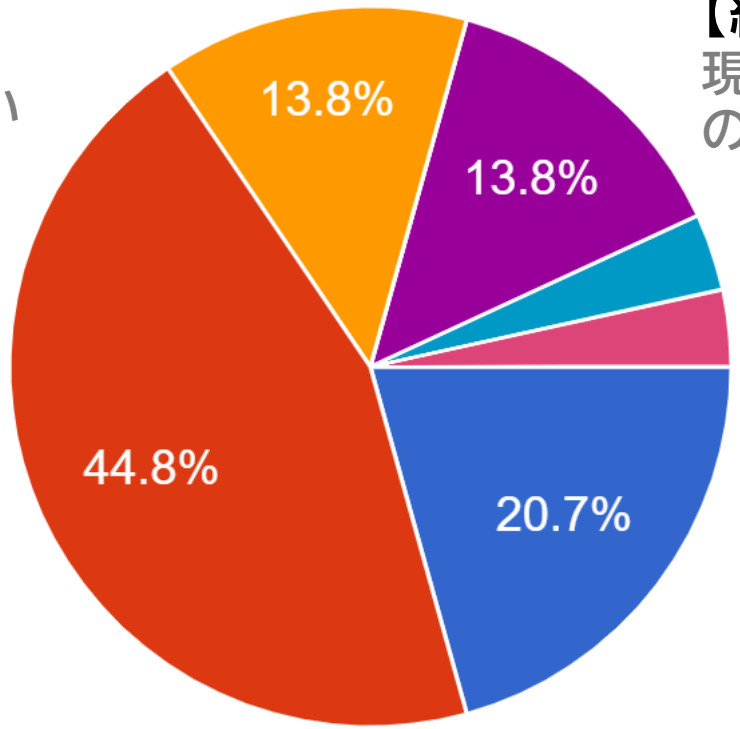
93.3%（28/30名）

3-2.設問内容

Q 2. 前の設問で「ある」と答えた方にお伺いします。そう思ったのはどんなことですか？最も当てはまるものを一つご回答ください。

第3位13.8%
【社内の理解】
経営層、上司、同僚等の理解が得られない

第3位　13.8%
【経済性・社会性の両立】
現在のインパクト投資は経済性・社会性の両立ができていないと感じる



第1位　44.8%
【あいまいな定義・認識のギャップ】
インパクト投資関連の定義や各人認識が明確ではない

第2位　20.7%
【複雑な原則類・フレームワーク】
海外発の原則類、指標類等のフレームワークが多い／わかりにくい

その他コメント：
本当にインパクト創出にこだわっているのかな？
インパクトの追求が経済的なリターンに結びつくか否か

3-3.設問内容

Q 3. 前々設問で「ある」と答え方にお伺いします。よろしければ、具体的なエピソードを教えてください。

【あいまいな定義・認識のギャップ】

「運用会社さんがご説明されるインパクト投資体制は、こちらが求めているものと異なるスタイルであるケースも多いが、それを伝えてもいまいちピンと来ていない雰囲気がある（中略）（アセットオーナー）」

【複雑な原則類・フレームワーク】

「インパクトのメジャメント議論が中心で、インパクトを生み出すマネジメントに対する議論が弱い（VC、CVC）」

「大手の投資企業や上場株投資を前提として作られているものが多く、シード・アーリー期のスタートアップにはそぐわない基準となっていることが多い（VC、CVC）」

【経済性・社会性の両立】

「インパクトと経済的利益を両立しないといけないと強固に主張する人と、通常の投資よりも悪いリターンも許容すべきという人が混在する。（金融機関）」

「資本主義の限界を越えるためのインパクトファイナンスのはずなのに、経済性に跳ね返る短期指標で捉えられる。（中略）「それって儲かるの？」というリアクションが返ってくることがよくあります。（スタートアップ）」

【社内の理解】

「インパクト投融資の市場規模の膨らみから、経営層がインパクト投融資で大きな経済的リターンが得られることが当たり前と勘違いしていた。（事業会社）」

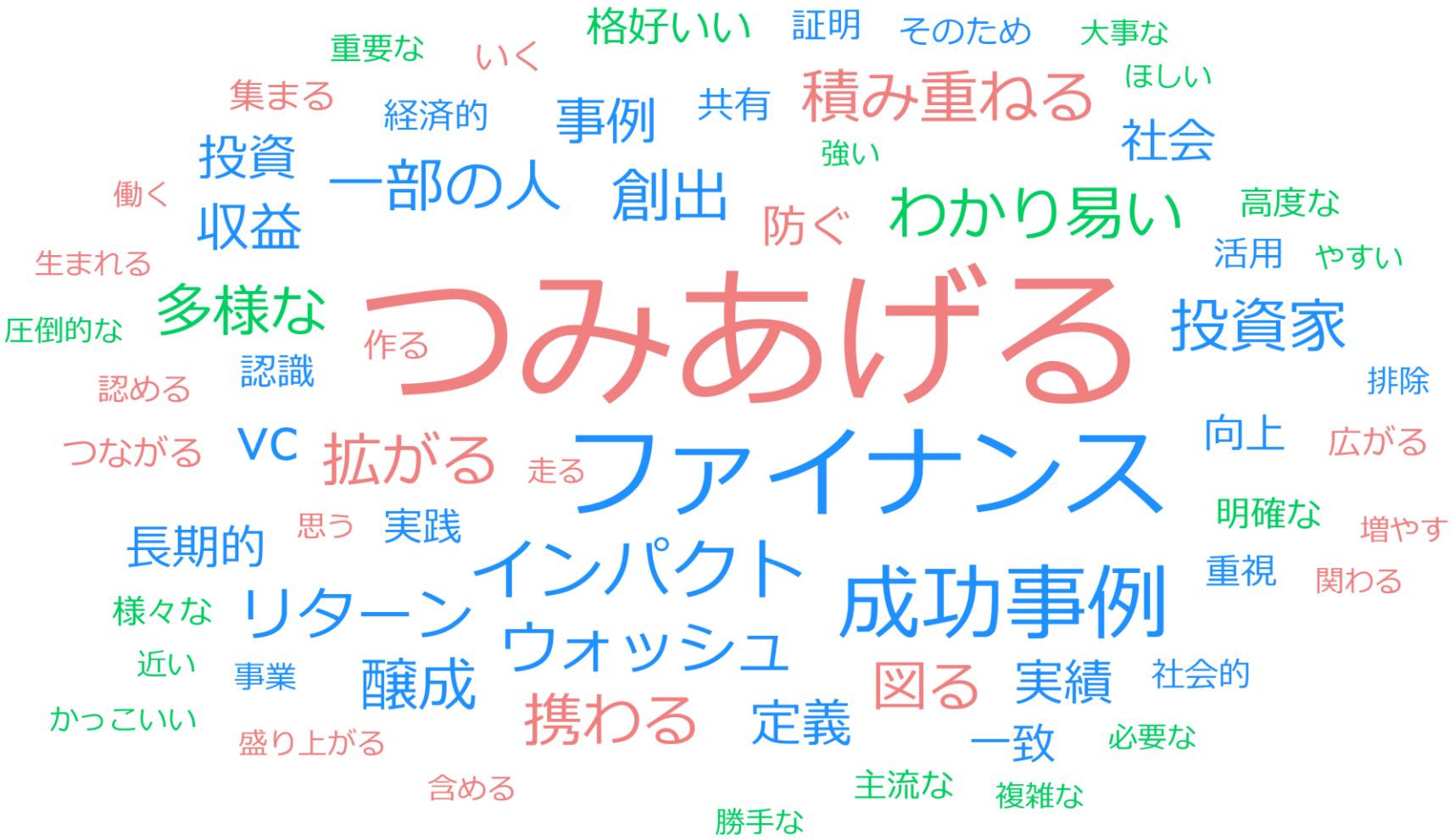
「組織として非常に親和性が高く有用性もあるのに、実際の投融資を担当する役員や現場に持って行くと前向きな反応が得られない。（金融機関）」

3-3.全回答

金融機関	インパクトファイナンスにおいて基本的に要素とされる「意図」と「評価（測定・管理）」のうち、特に「管理/マネジメント」についての考え方や実践が、人・機関によって濃淡があり、よくわからない
金融機関	組織として非常に親和性が高く有用性もあるのに、実際の投融資を担当する役員や現場に持って行くと前向きな反応が得られない。またコンセプトは理解されてもリソース不足や優先順位で劣後されてしまう。
アセットオーナー	グローバルに様々な原則・定義・フレームワーク・解釈があり、各組織・主体によって認識しているもしくは目指したいインパクト投資が異なる中で、特に各社の代表の方同士の議論や意見交換において、噛み合っていないと感じる時がある。またアセットオーナーとして運用会社さんと面談する際にも、運用会社さんがご説明されるインパクト投資体制は、こちらが求めているものと異なるスタイルであるケースも多いが、それを伝えてもいまいちピンと来ていない雰囲気がある時がある。インパクト投資の概念について、様々な理解があること自体の認識がないという部分に要因があると思われる。
金融機関	インパクトと経済的利益を両立しないといけないと強固に主張する人と、通常の投資よりも悪いリターンも許容すべきという人が混在する。助成金の延長にあるもの（本来リターンゼロのもの）もインパクト投資という名を冠するせいでリターンを求められたりと、逆効果になっているものもある。
事業会社	人によって「インパクト」の捉え方に差がありすぎて、話がかみ合わないことが多いと思います。まず定義を一定のレベルに揃えてからでないとまともな議論にならず空回りしてしまう点はなんとかしたいです。
評価機関、コンサルティング、シンクタンク、調査会社	評価研修を企画実施することがあるのですが、ロジックモデル策定研修では多くの受講者が集まる一方で、効果検証の研修を企画すると、あまり人が集まらなかったという経験をしました。まだ効果検証をするところまで関心が向かっていないのかなぁと思いました。
VC, CVC	一部のVCポートフォリオを見て、明らかにリターンが出ていない投資先が多い
VC, CVC	銀行のバーゼル規制、会計基準など金融の世界では全世界で適応される基準があることが一般的だが、インパクト投資について調べていくと複数の団体が、様々な時点で、多様な情報を発信しており、困惑する場面が多々あった。
事業会社	インパクト投融資の市場規模の膨らみから、経営層がインパクト投融資で大きな経済的リターンが得られることが当たり前と勘違いしていた。
非営利団体・財団法人・その他団体	従来からやっていう非営利セクター発のインパクト投資界隈は「利益を追求するインパクト投資は邪道だ」というようなイメージを持っており、他方、利益と両立すべく模索している大手金融機関側は、リターン目線の低いインパクト投資の存在を認めたくないところ。
VC, CVC	インパクトのメジャメント議論が中心で、インパクトを生み出すマネジメントに対する議論が弱い
VC, CVC	海外発の原則・フレームワークは体制が整っている大手の投資企業や上場株投資を前提として作られているものが多く、シード・アーリー期のスタートアップにはそぐわない基準となっていることが多いと思います。たとえばOPIMの原則および検証もそのような前提で実施されています。
金融機関	インパクト投資と言っても財務リターンのほうがより重視されているように感じることが多い。
スタートアップ企業	資本主義の限界を越えるためのインパクトファイナンスのはずなのに、経済性に跳ね返る短期指標で捉えられる。インパクトに関心があると言われてとある企業に営業・提案した時に「それって儲かるの？」というリアクションが返ってくることがよくあります。経済性という土台があっての社会性ということも勿論理解はしますが、両立ではなく「経済性を強化するための社会性」と捉えられているように思います。そこにどんなインテンショナリティがあるのか、と問いたくなる場面が多いです。
非営利団体・財団法人・その他団体	伝統的でわかりやすいビジネスモデルが重視され新規性がありゲームチェンジャーになり得るビジネスモデルが評価されづらい（農業でいうと、前者が農家の技術指導、後者が農家のAI化、など）
VC, CVC	各インパクトVCらとインパクトのディスカッションをするなからで、経済性・社会性のリターンのグラデーションが同程度の目標を持っている者同士であっても、IMMの各概念によって独自の解釈や定義をもっておりずれを感じることがある
金融機関	インパクトウォッシュの定義が曖昧であると感じます。

3-4. 設問内容

Q4. インパクトファイナンスが、次世代へとますます広がっていくために今一番必要なもの・ことは何だと思いますか？（頻出単語をワードクラウドで表示）



インパクト志向金融宣言が実施した、2024年4-5月にWebアンケート結果（有効回答数 30件）を
ユーザーローカルAIテキストマイニングによる分析をしたもの（ https://textmining.userlocal.jp/ ）

3-4.設問内容

Q4. インパクトファイナンスが、次世代へとますます広がっていくために今一番必要なもの・ことは何だと思いますか？

【成功事例・実績】12件

「インパクト創出が経済リターンにつながっていくことが実績とともに証明されること（アセットオーナー）」

「圧倒的に格好いい成功事例をたくさん作ること。そしてインパクトファイナンスに携わる人が、かっこいい働き方をして、メディアへの露出も含めて情報発信を増やしていくこと（評価機関・コンサル）」

＊上記分類は作成者が実施したもの。

【明確な定義・共通認識の醸成】7件

「経営陣や若年層へのインパクトファイナンスへの理解促進（VC、CVC）」

「インパクトファイナンスの定義認識の一致を図るシステム（社会状況に合わせて定義認識が更新されていく社会システム）が作られることが必要（金融機関）」

【制度やマインドセットの変革】6件

「利益重視、収益重視の考え方・価値観の変革。収益と環境・社会価値の両立が重要であると考える人が多数派になること。（金融機関）」

「世代交代、プレイヤーの多様化（VC,CVC）」

3-4.全回答

アセットオーナー	インパクト創出が経済リターンにつながっていくことが実績とともに証明されること
金融機関	あまり理想に走りすぎずに、ある程度の割り切りの中で実績をつみあげるべきだと思います。
金融機関	理念の強い方が集まるが故に、「俺/私のインパクト」が多数集まり、定義や認識が複雑化していっているように思います。近い将来、一部の人しか理解しない・一部の人が好き勝手に活用する言葉になってしまうのではないかと懸念します。これを防ぐためにも、インパクトファイナンスの定義認識の一致を図るシステム（社会状況に合わせて定義認識が更新されていく社会システム）が作られることが必要だと思います
金融機関	利益重視、収益重視の考え方・価値観の変革。収益と環境・社会価値の両立が重要であると考える人が多数派になること。
アセットオーナー	社会課題の解決と事業・企業の成長は一致し、超長期的には社会的リターンと経済的リターンは一致するという共有認識を醸成する必要がある。そのためにはウォッシュを排除した上で、様々な工夫をして成功事例を積み重ねる必要がある。
金融機関	インパクトを作る仕組みの構想・実践出来る権限・実行力、言い換えると投資先。金だけでは社会は動かない。
事業会社	わかりやすいケースが出てくると拡がりやすくなると思います。
評価機関、コンサルティング、シンクタンク、調査会社	圧倒的に格好いい成功事例をたくさん作ること。そしてインパクトファイナンスに携わる人が、かっこいい働き方をして、メディアへの露出も含めて情報発信を増やしていくこと。子どものなりたい職業上位20位以内に入ると、次世代に広がると思います。
評価機関、コンサルティング、シンクタンク、調査会社	共通認識、導入ハードルを下げるためのルール化、特に大企業以外もインパクトファイナンスをできるようにすること
非営利団体・財団法人・その他団体	世代交代、多様なプレイヤー
政府・自治体	わかり易さ、ユースケース
VC, CVC	インパクト投資がしっかりリターンに繋がることを証明し、一部の人だけが慈善活動的に興味があるものではない位置づけに変えていくこと。
VC, CVC	共通理解
事業会社	経営陣や若年層へのインパクトファイナンスへの理解促進
非営利団体・財団法人・その他団体	現在生まれつつあるインパクトVCがしっかりインパクトとリターンを出して世の中に認められること。
金融機関	インパクトファイナンスの認知度の向上と具体的な事例（特には成功事例）の積み上げ
VC, CVC	インパクトVCのファンドパフォーマンス
VC, CVC	アセットクラス、ステージ、地域性に応じたインパクト投資のあり方を実践ベースで確立・共有していき、投資家が常に投資先の成長に寄与しているか、という視点で国内でも検証しPDCAサイクルを回していくことが大事だと思います。
金融機関	インパクト投資の主流化、そのため現在なにが欠けているのかを業界で共有すること。
事業会社	投資家や消費者などに向けたインパクトファイナンスに関する教育と意識の向上への努力
スタートアップ企業	「インパクト」という言葉の多義性・高度な専門性をとっぱらった、よりライトな関わりしろを作ることが重要。逆説的ですが、インパクトを金融だけのものにせずに、多様なセクターとともにファイナンス以外にも様々な「インパクト」の活用・ムーブメントを企図することで、結果的にインパクトファイナンスも盛り上がるのではないかと思料しています。
非営利団体・財団法人・その他団体	大成功するインパクトスタートアップまたはインパクトVC
VC, CVC	IMMやインパクト評価することが、「明確に」起業家や被評価者側にとって便益を教授できる/インセンティブがあるような設計になってほしいと思います
金融機関	しっかりと実績を作ること、枠組みを明確化することだと考えます。
評価機関、コンサルティング、シンクタンク、調査会社	事例の積み上げ。インパクトファイナンスによって、本当にインパクトがあった、社会や企業がよくなったという成功事例がもっと世の中にでていくこと。

End of document